

第1章 道路設計一般

現行設計要領の目次		変更ポイント	変更箇所	備考(参考文献等)	
1-1	道路事業の手順				
		道路事業のフローチャートの改訂および実施内容の解説文を改訂			
1-2	設計一般				
	1-2-5	道路の幅員構成	関係図書の発行年月の修正	枠内1行目	
	1-2-6	平面・縦断線形	最小曲線半径の縮小値について、積雪地域を考慮した最大片勾配の値に応じた縮小値(道路構造令の解説と運用p.348表3-5)を追記	表1.2平面、縦断線形の設計緒元値及び但し書き	道路構造令の解説と運用
	1-2-7	(2)側道	「側道の幅員は4.0mが標準」でなく、「機能補償する道路の現況幅員を基本とし、道路管理者と協議を行い決定する」ことに記載を変更	(2)側道 枠内 2.	
1-7	景観設計				
			参考図書情報の更新・追加と景観計画が策定されている場合はその景観計画に基づき自治体を調整することを追記	枠内2行目及び表1.8関係図書	
1-8	道路緑化				
	1-8-2	設計	樹木の成長(根上がり等)による道路の段差や亀裂が生じないように配慮するため、必要に応じて対策を検討することを追記	(4)を追加	

第2章 交差点設計

現行設計要領の目次		変更ポイント	変更箇所	備考(参考文献等)
2-1	交差点設計			
	2-1-1	適用	関係図書の発行年月の修正、廃盤の削除	表2.1

現行設計要領の目次		変更ポイント	変更箇所	備考(参考文献等)
3-1	道路事業の手順			
	3-1	適用	関係図書の発行年月の修正	表3.1
3-2	土工			
	3-2-3	盛土	関係図書の発行年月の修正、項目の記載の追加	(5)下から7行目
	3-3-2	吹付砕工	関係図書の発行年月の修正	下から1行目
	3-3-4	モルタル・コンクリート吹付工	関係図書の発行年月の修正	下から1行目

第4章 軟弱地盤対策

現行設計要領の目次		変更ポイント	変更箇所	備考(参考文献等)
4-1	適用			
		関係図書の発行年月の修正	表4.1	
4-4	軟弱地盤上の盛土の対策工法			
	4-4-1	対策工法の選定	発泡スチロール土工法開発機構 EDO-EPS工法設計・施工基準書(案)の発行年月を修正	本文12.(2)

第5章 道路構造物

現行設計要領の目次		変更ポイント	変更箇所	備考(参考文献等)	
5-1	適用				
	5-1-1	適用範囲	「道路土工-カルバート工指針」に記載されている注記との記載されていない注記を明確化	枠内の注4)の位置を表5.1適用範囲の外へ移動	
	5-1-2	適用図書	関係図書の追記と発行年月の修正 適用する道路橋示方書、杭基礎設計・施工便覧は旧版を使用する旨を明記	表5.2	
5-2	擁壁				
	5-2-1	形式選定	補強土壁の適用高さは各種マニュアルに準じる旨と、橋台背面への適用について追記	表5.5	
	5-2-2	設計一般	重要度1で「交通機能に著しい影響」の判断目安を追加	(1)擁壁の要求性能	
	5-2-2	設計一般	地震時に考慮する雪荷重は、橋梁と異なり従来通り1/2とする考えを明記	(2)荷重の種類	北陸地方整備局 設計要領(H29.4)
	5-2-3	直接基礎の選定	置き換え基礎について、同様の記載がある橋梁の章番号へ誘導	(1)直接基礎	
	5-2-3	直接基礎の選定	許容応力度法による杭基礎の設計について、設計要領-道路編(H29.4)へ誘導	(2)杭基礎	
	5-2-5	配筋	設計で使いやすいよう、水セメント比に加えて設計基準強度を並記 設計基準強度40N/mm ² に相当する水セメント比を追加	表5.14	道路橋示方書Ⅲ、Ⅳ(H24.3)
	5-2-6	ブロック積の設計	市場性を鑑み、π型に替わる大型ブロック積について追記	枠内の2の記載内容を変更	
5-3	ボックスカルバート				
	5-3-2	設計一般	歩道除雪車荷重に関する記載内容を「5-2 擁壁」と整合を図った	(1)荷重	
	5-3-2	設計一般	地震時に考慮する雪荷重は、橋梁と異なり従来通り1/2とする考えを明記	(2)荷重の種類	北陸地方整備局 設計要領(H29.4)
	5-3-4	構造細目	擁壁同様に鉄筋の最小純かぶりを追加	表5.21	
	5-3-4	構造細目	設計で使いやすいよう、水セメント比に加えて設計基準強度を並記 設計基準強度40N/mm ² に相当する水セメント比を追加	表5.22	道路橋示方書Ⅲ、Ⅳ(H24.3)
5-4	排水構造物				
	5-4-3	管渠	JIS番号、仕様を最新情報に更新	(1)管渠の選定	
5-5	遮音壁				
	5-5-1	適用	関係図書の追記と発行年月の修正 適用する道路橋示方書、杭基礎設計・施工便覧は旧版を使用する旨を明記	表5.27	

第7章 グラウンドアンカー

現行設計要領の目次		変更ポイント	変更箇所	備考(参考文献等)
7-1	適用			
		関係図書の発行年月の修正	表7.1	

第8章 舗装

現行設計要領の目次		変更ポイント	変更箇所	備考(参考文献等)
8-1	総則			
	8-1-1	適用範囲	関係図書の追記と発行年月の修正	表8.1
8-2	設計一般			
	8-2-2-3	舗装種別の選択	アスファルト、コンクリート舗装が同列で採否を検討できるよう、どのようなケースの時に、コンクリート舗装の検討を行うべきかを例示したフローチャートを作成。また、道路予備設計段階から検討を行っておく必要があることを明記	フローチャートの追加、解説文の修正・追加
	8-2-3	建設リサイクルの基本方針		
	8-2-3-1	建設リサイクル推進計画2020	建設リサイクル推進計画2014が建設リサイクル推進計画2020に改訂されたため最新版の内容に修正	枠内文章
8-4	アスファルト舗装			
	8-4-3	舗装材料		
	8-4-3-1	路盤材料	M-30を新潟県では製造していないため、「ただしM-30の入手が困難な地域ではM-25を使用しても良い。」を追記	表8.16下に注5)を追加
8-5	コンクリート舗装			
	8-5-1	適用範囲	下の表8. 30の内容と整合を図るため、「…交通条件、環境条件、経済性、安全性、環境保全等を勘案…」に「走行性及び施工性」を追加	8-5-1枠内(2)
	8-5-3	舗装の設計		
	8-5-3-5	コンクリート版の設計		
	8-5-3-6	鉄網及び縁部補強鉄筋	いずれも普通コンクリート舗装に関する事項であることからタイトルに「普通コンクリート舗装の」を追記	タイトル名
	8-5-3-7	目地工 目地工	緩衝版から一般の舗装版への接続の設計のため、踏み掛け版、緩衝版の図を「図8.29目地構造」に追加	図8.29に⑥を追加
8-5-6	コンクリート版の補強	構造物が路盤又は路床に入る場合、コンクリート版の補強が必要であることを明記するため追記。	枠内の3の記載を変更	「舗装設計便覧」P210～P212
8-6	歩道及び自転車道等の舗装			
	8-6-3	設計		
	8-6-3-2	舗装工法と舗装構成	舗装の構成例の勾配の表記について透水性舗装の場合と密粒度舗装の場合の使い分けをわかりやすくするため記載方法を変更	(1)図8.34、(2)8.36
8-7	適用箇所別の舗装			
	8-7-1	路肩舗装		
	8-7-1-2	路肩横断勾配	勾配差について誤用を防ぐため、よりわかりやすく文章を変更	
	8-7-3	トンネル内舗装	横断排水が中央排水管へ接続する図に変更	図8.59
8-10	舗装の維持・修繕			
	8-10-6	コンクリート舗装の維持・修繕		
	8-10-6-3	プレキャスト版舗装		
	8-10-6-3-1	適用範囲	プレキャストRC舗装版の形状は道路の幅員、敷設・輸送条件を十分検討したうえで決定することを追記	解説の(4)
				リバーシブル型・融雪配管理設型プレキャストRC版舗装設計施工マニュアル

第9章 橋梁

現行設計要領の目次		変更ポイント	変更箇所	備考(参考文献等)	
9-1	—	適用	関係図書の追記・削除と発行年月の修正	表9.1、表9.2	
9-2	橋梁一般				
	9-2-7	橋梁計画の基本事項	橋梁形式選定フローチャート内に、権限代行事業の場合の留意事項を追記	図9.4	
9-3	耐久性の検討				
	9-3-2	塩害に対する検討	地覆水切りの形状を変更	図9.8	
	9-3-4	桁端部および添接部			
	9-3-4-1	鋼橋	増し塗が必要な桁端部に横組や横構も対象となることを追記	本文(1)	
	9-3-4-1	鋼橋	水切り板の設置に関する留意事項を追記	解説(3)	
9-4	上部工				
	9-4-2	鋼橋			
	9-4-2-3	設計計算	対傾構造に限定しないため、「端対傾構(横桁)および支点上対傾構(横桁)」に修正	本文3.	
			本文と整合を図るため、「変形法」を「任意形格子理論(変形法)」に修正	解説1.	
	9-4-2-4	主桁の縦・横断骨組	R2鋼道路橋設計便覧88頁4行目に従い、「ハンチ高は横組の維持管理が行いやすいよう配慮すること。」を追記	本文1.	R2鋼道路橋設計便覧
	9-4-2-9	I桁橋 5. 横構	H29年道路橋示方書に基づく道路橋の設計計算例(正誤表)に従い、「H29年道路橋示方書に基づく道路橋の設計計算例では、便宜的に横構で1/4を分担して抵抗すると仮定している。」を「H29年道路橋示方書に基づく道路橋の設計計算例(正誤表p108)を参考に出来る。」に修正	解説(1)	H29年道路橋示方書に基づく道路橋の設計計算例(正誤表)
	9-4-3	PC橋			
	9-4-3-3	設計計算	せん断力に対する検討は、せん断応力度の照査のみではないため、「せん断力を受ける部材の照査では」に修正	本文3. 解説	
	9-4-3-5	床版橋	構造解析に関する記述を『コンクリート道路橋設計便覧R2.9』の記述と整合させるため修正 ボイド及びホローを円筒型枠に修正 施工に関する記述を削除し、参考文献の紹介に止めた	本文3. 本文4. 解説	コンクリート道路橋設計便覧R2.9 " 施工便覧参照で十分と判断
	9-4-3-6	プレキャスト桁	連結桁の設計に関する記述で、設計要領で参照する章を追加 「主桁の構造細目」に関して、『コンクリート道路橋設計便覧R2.9』等の記述と整合させるため修正	本文1.(2) 本文4. 解説	道示Ⅲの16章は「連結桁橋」に係るため コンクリート道路橋設計便覧R2.9、支承便覧H30.12
	9-4-3-6	プレキャスト桁	日本語的に違和感があるため、表現を修正 端支点横桁に関する記述を、『コンクリート道路橋設計便覧R2.9』等の記述と整合させるため修正 斜角及び中間横桁の対処方法に関する記述を『コンクリート道路橋設計便覧R2.9』の記述と整合させるため修正	本文6.(3) 本文6.(4) 解説	コンクリート道路橋設計便覧R2.9、H6.2 コンクリート道路橋設計便覧R2.9 "
	9-4-3-7	PC合成桁橋(PCコンボ橋)	「架設時」を「施工時」に修正 解説(6)の記述を『コンクリート道路橋設計便覧R2.9』の記述と整合させるため修正	本文4.(2)、解説 本文4. 解説(6)の1)~4)	コンクリート道路橋設計便覧R2.9 "
	9-4-3-7	PC合成桁橋(PCコンボ橋)	H29道示では、コンボ橋だけでなく、T桁橋にも首振りの検討が必要と記述されるようになったため、解説5)を追記	本文4. 解説(6)の5)	道路橋示方書Ⅲコンクリート橋・コンクリート部材編 H29.11
	9-4-3-8	プレキャスト桁架設方式連続桁橋	連結部の照査方法に関して一部を修正 連結部の構造に関して一部修正	本文6. 解説 本文8.	コンクリート道路橋設計便覧R2.9 "
9-4-4	RC橋				
9-4-4-4	中空床版橋	解析方法に関する記述を修正	本文3.	道路橋示方書Ⅲコンクリート橋・コンクリート部材編 H29.11	
9-4-4-4	中空床版橋	連続床版橋は、格子理論で解析するため、本文(1)を削除	本文5.		
9-5	下部工				
	9-5-2-9	踏掛版	コンクリート舗装の場合の参照先を追記	解説(1) 1) 二	
	9-5-2-11	橋台背面アプローチ部	橋台背面に補強土壁を使用する場合の注意点を追記	解説	
	9-5-5-2	橋座の設計	支承交換時の仮受けを想定する場合は、その反力に対する照査の必要性を追記	解説	
	9-5-5-4	配筋細目	落橋防止構造を取り付けない場合は、スターラップが不要と読みとれたため、表現を訂正	5.逆T式橋台の配筋細目 解説(1)	
	9-5-7	杭基礎	杭基礎設計便覧R2.9の目次構成改訂を踏まえ、参照先を修正	9-5-7-2 解説(3) 9-5-7-7 解説(2) 9-5-7-8 解説(3) 9-5-7-9 解説	
9-5-7-5	地盤反力係数及びバネ定数	杭の軸方向バネ定数を算出するにあたり、腐食代を差し引かない断面積で算出するように修正	解説	杭基礎設計便覧R2.9	

第9章 橋梁

現行設計要領の目次		変更ポイント	変更箇所	備考(参考文献等)
9-5-7-6	岩盤に対する杭の支持力	道路橋示方書には記載のない項目が杭基礎設計便覧R2.9に記載されたため、項目を追加し、参照先を追記		
9-5-7-9	構造細目	スパイラル鉄筋の構造細目についての参照先を追記	3.場所打ち杭 解説(7)	
9-6	附属物			
	9-6-3	伸縮装置	二輪車の走行性に配慮した形式・形状計画の必要性を追記 二重止水構造の排水導水の重要性を追記	1.使用区分 本文(4) 解説(3)
	9-6-5	歩道・防護柵・地覆	水切りに飛来塩分の付着を抑制するすみ切りを設けた 壁高欄の膨張目地間隔について追記	1.形式一般 本文(3) 図9.216, 図9.217 解説(7)
	9-6-7	検査路	橋脚の下部工検査路はロ・コの字型を基本とした。 材質については塩害対策区分Sに加え、維持管理の困難な箇所についても使用材料の検討を追記	1.設置の基準 本文(2)、表9.45 2.構造および防錆 本文(2)
9-7	橋梁補修・補強設計			
	9-7-1-1	適用範囲	関係図書の発行年月の修正	解説

現行設計要領の目次		変更ポイント	変更箇所	備考(参考文献等)
10-1	適用			
		関係図書の発行年月の修正	表10.1	
10-2	基本計画			
	10-2-5	断面設計	監査廊を監査歩廊に修正(図と文章との整合を図った。)	図10.4
			監査廊の記載を削除	2)の2行目
10-5	支保工の設計			
	10-5-4	鋼製支保工	DⅢ(坑口部)底版の規格をPL-300×300×19に修正	表10.16

現行設計要領の目次		変更ポイント	変更箇所	備考(参考文献等)
11-1	防災工の計画			
	11-1-2	防災計画の基本	関係図書の発行年月の修正、廃盤の削除	表11.1
			参考図書の発行年月の修正、廃盤の削除	表11.2

現行設計要領の目次		変更ポイント	変更箇所	備考(参考文献等)
歩道及び自転車通行空間				
12-1	12-1-1	適用	自転車専用通行帯を「自転車通行帯」に修正	
			関係図書の追記と発行年月の修正	表12.1
			解説文を「12-1-3」「12-1-5」に移動	解説文
	12-1-2	歩道及び自転車通行空間の用語	用語の定義の追加	
	12-1-3	歩道及び自転車通行空間整備の	「12-1-1」の解説文を移動	
	12-1-4	歩道の構造	縁石高20cmとしている出典元、路肩に側溝を設ける場合の留意事項を追記	解説文
	12-1-5	自転車通行空間の整備	「12-1-1」のフローを移動	
12-1-6	自転車通行空間の整備形態	自転車通行空間の整備形態を整理		
自動車乗り入れ道				
12-2	12-2-1	適用	関係図書の追記と発行年月の修正	表12.5
乗合自動車停留所				
12-3	12-3-1	適用	関係図書の追記と発行年月の修正	表12.7
路面電車停留所				
12-4			関係図書の追記と発行年月の修正	表12.8
視線誘導標				
12-6	12-6-4	障害物表示反射体(灯)	図の修正	図12.29
防護柵				
12-8	12-8-1	適用	関係図書の追記と発行年月の修正	表12.15
	12-8-3	景観への配慮	景観に配慮した防護柵マスタープランに限定しない記載に修正	解説文
道路標識				
12-9	12-9-1	適用	関係図書の追記と発行年月の修正 標識の構造については、「標準設計」の他に「道路標識構造便覧会」を追記	表12.20

現行設計要領の目次		変更ポイント	変更箇所	備考(参考文献等)
13-1	電線共同溝			
	13-1-1	適用	関係図書の追加とそれに伴う解説文の一部削除	表13.1

現行設計要領の目次		変更ポイント	変更箇所	備考(参考文献等)
14-1	除雪ステーション			
	14-1-1	定義	詰所、車庫、薬剤庫の定義を個別に記載	定義の本文全般
	14-1-2	設置計画	除雪ステーションの概ねの設置間隔の記載を削除。解説文から多雪地区の目安、全体計画の文章削除	設置計画の四角囲み内1、解説文(2)(3)
	14-1-3	規模	本文を分割して敷地、詰所、車庫を個別に解説。車庫の参考図を追加	14-1-3本文、解説全般
	14-1-4	薬剤庫	章番号を外し、「14-1-3規模」の中で薬剤庫を解説。薬剤庫の参考図を更新	
14-1-5	舗装	「14-1-5舗装」を「14-1-4その他」に変更し、舗装と消融雪施設を解説	本文全般	

現行設計要領の目次		変更ポイント	変更箇所	備考(参考文献等)
15-1	総則			
	15-1-3	参考文献	参考文献の発行年月の修正と新たな文献の追加	表15.1

第16章 地質調査の手引き(案)

現行設計要領の目次		変更ポイント	変更箇所	備考(参考文献等)
16-1	総則			
	16-1-4	参考文献	関係図書の発行年月の修正、廃盤の削除	表